

天文学とプラネタリウム

第48回

今月のお題

「台湾天文事情」

■ATPがついにトップアイドルの手に！



世界中のいろんなところで、天文学研究が活発に行われています。今回は台湾での天文学についてご紹介。

高梨直紘 (天プラ)

平松正顕 (天プラ)



www.tenpla.net

世界の天文学の現場から

各地に公開天文台やプラネタリウムが設置されている日本は、間違いなく世界有数の天文大国でしょう。しかし、場所によって見え方の違いはあるものの、地球上どこでも同じ宇宙を眺めることができます。世界のいろいろなところを旅すると、現地で行われる天文学研究、あるいは宇宙好きな皆さんの活動も、同じ天文趣味人としては気になるところです。

沖縄のすぐお隣、台湾でも天文学の研究は活発に行われています。台湾には中央研究院という巨大な研究組織があり、物理・化学・生物から歴史・言語・政治まで、多彩な研究が行われています。その中で天文学研究を担うのは、天文及天文物理研究所 (ASIAA) です。規模は少し小さいですが、日本で言えば国立天文台に相当するような組織で、40人ほどの研究者が理論/観測の両面から天文学研究を行っています。そのほか、いくつかの大学でも活発に天文学研究が行われています。台湾の天文学で特徴的なのは、国際協力がとても盛んなことです。アメリ

カの研究機関と共同でハワイ・マウナケア山頂の電波望遠鏡 (SMA) を運営していたり、太陽系外縁天体サーベイプロジェクト (TAOS) を推進していたりします。さらに、日本・北米・欧州のが共同で南米チリにて建設を進めている次世代電波天文台ALMAにも参加し、日本とともに東アジアグループを形成しています。台湾単独で大きなプロジェクトを実行するのは難しくても、世界各国と協力することでそれを実現しているわけです。

活発な天文学研究に呼応するように、台北には巨大な天文施設『台北市立天文科学教育館』があります。25mドームを備えたプラネタリウム/IMAXシアターと立体映像シアター、口径40cm望遠鏡を備えた天文台があり、天文学で博士号を取ったスタッフが多数働いているそうです。さらに、ディズニーランドにあるような『ライド』に乗って太陽系や銀河系を旅できる施設もあるとか。ASIAAから講師を招いての講演会や一般観望会、キャンプなど、活動の幅も広いようです。筆者はまだ訪れたことはないのですが、ぜひ一度行ってみたいと思います。そうしたらまたここでレポートしますね。



アストロクラブいきつけのお店で会心の笑みを浮かべる平松(上)と宮島の鹿と戯れる高梨(下)

と、こんなことを書くのは、筆者の一人 (平松) が4月から台湾の国立清華大学で研究員として働くことにしたからです。研究者として一度は海外の研究機関に籍を置いてみるというのも大事なことなのです。天プラのような活動が台湾でできるかどうかはわかりませんが、また面白そうなことがあればここでご報告しますので、お楽しみに。